

(別紙様式 2)

学生等評価の改善状況報告書

平成 27 年 3 月 31 日

評価会議議長 殿

情報学研究科長

静岡大学における学生等による評価に関する基本方針に基づき、平成 24 年度に実施された学生等による評価結果に係る改善事項について、平成 26 年度の改善状況を次のとおり報告します。

改善事項
学部生の時間割
改善計画
大筋ですでに実施しているが、H26 年度時間割作成の際に、学生からの要望をできるだけ配慮して作成する。 実施時期（予定を含む）：H26 年度以降の時間割作成時
改善状況
情報学部・研究科は、創設以来、絶えずカリキュラムや時間割の見直しを行っている。4 年に 1 度、大幅なカリキュラムの改訂まで行っている。 時間割に関しては、必修科目が再履修となっても支障がないように、また 3 年次編入学生の 1，2 年次科目履修に支障がないようにすることを目的として、できうる限り、学年間でも必修科目が同一コマに重ならないように配置している。
達成年度（予定を含む）
平成 27 年度

改善事項
学部生の英語
改善計画
情報学部では、元々、下記のように大筋で実施しており、さらに平成 25 年度より英語コミュニケーション系の科目の選択必修 1 科目を制度化し、さらに充実したカリキュラムをスタートさせている。

実施時期（予定を含む）：実施中
改善状況
情報学部では、創設以来、専門科目での英語科目をかなり強化してきた。実際、英語の native 教員も 3 名配置している。1 学年 200 名規模の学部としては、かなり手厚い配置といえる。
達成年度（予定を含む）
平成 26 年度 達成済み

改善事項
学部生の初修外国語
改善計画
<p>本学部は、各年度当初のガイダンスで留学やインターンシップを学生に強く勧めているが、H26 年度春のガイダンスで非英語圏の静大協定校への留学をさらに勧めることとする。なおこの課題は 1 部局の問題に止まらず、初修外国語部会との連携も重要ではないかと思われる。</p> <p>(1) 浜松の地域性を考えると、ポルトガル語の導入が望まれる。地元地域の外国人の人々との交流に役立てられるであろう。</p> <p>実施時期（予定を含む）：実施中</p>
改善状況
<p>(1) 全学教育センター初修外国語部会の努力によって、平成 26 年度から浜松キャンパスに初修外国語としてポルトガル語も導入され、学生の選択肢が増えた。</p> <p>(2) 下記「学部生の国際的視野」の項に示した通り、「海外研究機関との研究室交流による国際的リーダー育成プログラム（工学部と共同）」によってドイツ語圏および中国語圏への学生派遣を行った。</p>
達成年度（予定を含む）
平成 26 年度 達成済み

改善事項
学部生の国際的視野
改善計画
<p>情報学部で取り組んでいる重要事項の一つである。さまざまな補助金（「山本学生国際交流基金」など）を活用して一層学部生の留学、インターンシップ、留学生・外国人との交流イベントを支援する。特に、H25 年度に浜松キャンパスにおける留学生と日本人学生の交流を促進するため「情報学部学生福利厚生会」から補助金を支出することに決定した。ただし、</p>

留学生との交流等も、一部局を超える取り組みが多い。全学的取り組みも強化すべきではないか。

実施時期（予定を含む）：実施中

改善状況

(1)七夕やクリスマスなどで、毎年、留学生との交流会を実施している。

(2)独立行政法人日本学生支援機構の海外留学支援制度による海外派遣を実施した。今後も継続する予定である。

- シドニー大学（オーストラリア）短期集中コース（H26年12月18日～H27年1月6日）5名
- 海外研究機関との研究室交流による国際的リーダー育成プログラム（工学部と共同）
 - ・ ダルムシュタット工科大学（ドイツ）へ6名 H26年11月16日～24日
 - ・ 香港大学へ5名 H27年1月24日～2月1日

(3)文部科学省の海外留学奨学金「トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム」（H26年度より開始）に3名が応募したが、残念ながら採択されなかった。

達成年度（予定を含む）

平成 26 年度 達成済み